

令和元年度第2回公立大学法人宮城大学経営審議会議事録

日 時	令和2年3月24日（火）午後1時30分から同3時40分まで
場 所	宮城大学大和キャンパス本部棟3階 大会議室
出 席 者	阿部博之委員，田中正人委員，石井幹子委員，安住順一委員， 川上伸昭議長，正木毅委員，川村保委員，風見正三委員，工藤和浩委員， （オブザーバー）武田淳子理事，西條力理事，井上誠副学長
事 務 局	寺嶋事務局長，川越次長兼総務課長，菅原企画・入試課長，伊東財務課長， 佐藤学務課長，阿部学術情報室長，高橋太白事務室長， 企画・入試課 小野寺課長補佐，吉川主幹，小林主査
議 事 概 要	1 開会 2 挨拶（川上理事長） 本日は御多用の中，お集まりいただき感謝する。 新型コロナウイルスへの感染が拡大し，種々の会合が中止されている中，この経営審議会も開催するかどうか悩んだが，会場を変更し人と人との間隔を取るなど安全を確保した上で開催することとした。 本日は，説明事項や資料が多いが，よろしく御審議賜るようお願いしたい。 3 議事録署名人の選任 川上議長から，前回会議の議事録について出席者に確認を求めた後，安住委員及び工藤委員が議事録署名人に指名された。 4 現状報告 審議に先立って，資料2から資料8に基づき，西條理事，正木委員，川村委員及び風見委員より現状報告があった。 5 審議事項 (1) 議案1 令和2年度年度計画（案）について (2) 議案2 令和2年度当初予算（案）について (3) 議案3 令和元年度補正予算について（追認） (4) 議案4 公立大学法人宮城大学業務方法書の改正について ・ 議案1の令和2年度年度計画（案）について，資料9-1及び資料9-2に基づき，正木委員から内容の説明があった。 ・ 議案2の令和2年度当初予算（案）について，資料10に基づき，工藤委員から内容の説明があった。 ・ 議案3の令和元年度補正予算について，資料11に基づき，工藤委員から内容の説明があった。 ・ 議案4の公立大学法人宮城大学業務方法書の改正について，資料12に基

づき、西條理事から内容の説明があった。

- ・ 説明終了後、4の現状報告及び5の審議事項について一括して質疑を求めたが、質疑はなかった。

○ 議案1、議案2、議案3及び議案4について異議なく承認された。

6 報告事項

(1) 公立大学法人宮城大学第3期中期計画（原案）について

資料13-1から資料13-4に基づき、川上議長及び正木委員から内容の説明があった。

その後、本日のすべての説明事項に対する意見交換を行った。

(田中委員) 説明を聞いて学生に対し非常に丁寧に教育をしていると感じた。1年生には大学に入って教育を受けるに当たっての基本的な学力がまだ整っていない人もいるので、しっかり底上げする手だてをとっている。また、アクティブラーニングなどの試みも成果もあげている。さらに、大学院をどのように位置づけて連続性、専門性を高めていくのかを楽しみにしている。

どういう人材を育成するかについては、学生が大学の準備した教育に感応し、いかに自主的に学習するかが重要になってくると思う。企業でも同様でこちらから一方的に教えると受け身になってしまい、3年5年経ってもなかなか伸びないということになるので、気づきを与えて聞いてきたら答えてやる。そのためには何でも聞いていいよという風土の醸成が必要になってくると思う。

学生が単位をある程度取得し、大学に来る頻度が減ってくると大学が用意しているせっかくの仕組みが利用されなくなるので、コモンズをはじめ様々な仕組みの有用性を周知することが重要になる。学生はどうしてもアルバイトや市内中心部に足が向いてしまうが、就職するとゆっくり考える時間があまりなくなるので、大学の4年間は非常に貴重な時間である。卒業してから気づくのではなく、1、2年生の間に気づくような働きかけをしてほしい。2、3年前まで企業は地頭がよい学生を求めていたが、最近は全く経験のないことはいかにクリエイティブに対処できるかという人材が求められている。例えば、新型コロナウイルスへの対応についても、すぐにアイデアが出るものではなく、学生時代の経験・事例などからなぜこうなったのか、民衆はどのように動くのかなど自分でじっくり考え、自分なりに納得し、引き出しをつくることによって実効性のあるクリエイティブなアイデアが出てくると思う。そういう意味で大学は世間と違う時間の流れを持っているので、それを十分に活かすことができるし、宮城大学も早い段階で大学の優れた点を学生に伝えていくべきと考える。

(石井委員) 看護実習など非常に丁寧に関わってもらっているし、大学院についても土日・夜間のほかサテライトキャンパスも開放してもらっている。今日の話を伺うとこれから尖った人材を育成していくということで、看護においても

新しい発想のできる人材を求めているので、とてもよい道筋を開いてもらっていると感じた。

1点、資料に記載のある看護教育の高度化とはどういうものなのか伺いたい。今、看護教育は基礎教育4年化を目指している。保健師教育、養護教育、助産師を除くとこれまでの3年教育では現場に出て実践力のなさに落ち込んでついていけず、辞めてしまう学生が出ている中で基礎教育を4年にしたいと思っているが、看護教育の高度化がそのことを指すのかどうか伺いたい。

もう1点、数値目標の中に県内就職率を入れてもらえるとよい。医療人材不足の中で県内に医療人材をどうやって定着させるかという課題があるので、宮城大学には期待している。

(川村委員) 地頭のよい人材から全く経験のないことへ対処できる人材へのニーズが高まっているという話をいただいた。本学では基盤教育と専門教育の2層構造をとっており、基盤教育では一通りの基礎知識を習得し、専門教育での応用力につなげるという仕組みでやっているが、やってみると2層構造が明確に分かれ過ぎているということで、これらを融合させて基礎力と専門性を総合的に結び付けていくことを考えており、次期中期計画においてはそこに力点を置きたいと思っている。それが幅の広いバックグラウンドを持った人材の育成につながっていくものと考えている。

また、新たな発想ができるということについても基礎力がなければ思いつき程度の発想しかできないので、力をつける過程で座学だけではなく、フィールドに出たり、アクティブラーニングをしたり様々な経験をすることによる人材の育成を心がけているし、これからも取り組んでいくこととしている。

(川上議長) 看護教育の高度化については、私が今掲げているものであり、これから組織の中で取り組んでももらいたいというものである。したがって、私のイメージによるところが大きいですが、看護教育が4年化という方向に向かっている中で、もともと4年教育を行っている大学はどうするかというと6年化も視野に入れていくべきと考えている。同時に質としては、看護職が医療現場でしっかり働いていくためには、他の医療関係者と連携を取り、その中でリーダーシップを発揮する人材でなければならない。併せて知識と人格を備えた人材でなくてはならない。そういう意味で看護教育の高度化というものを掲げているところである。現在、武田理事や看護学群長と意見交換をしているところであるが、現場としては基礎看護の42単位化に対応しなければならないので、まずはそこに取り組んでいるところである。

(武田理事) 本学では看護しか医療系の学群はないわけであるが、東北医科薬科大学と連携しIPEに取り組んでいる。宮城教育大学との連携については、大学院での養護教諭の専修免許状取得を目指して検討している。また、専門看護師教育課程の在宅看護分野に関しても申請に向けて努力している。全学的にはICT、AIということで、特に看護学群の教育としては弱いところであるが、その辺も強化していきたいと考えている。

(安住委員) 改めて大学の理念をみると、高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するということで、まさに県立大学としての存在意義であると思う。そういう意味で地域で活躍する人材、公務員のように地域に貢献する人材を育成してもらうわけであるが、東北地方においては、グローバルな視点やAI関連などについては、どうしても他地域と比べて刺激がまだまだ少ないので、大学としてそういった人材を育成してもらいたい。また、第3期においては、第3期で重点的に取り組むべき事項に係る具体的な施策によって目指すべき人材の育成に取り組んでももらいたい。

1点気になるのは、入学者選抜状況のところである。事業構想学群については増えたり減ったりで変化はないが、看護学群と食産業学群については、減少傾向にあると思うので、出願者の確保に取り組んでももらいたい。

もう1つ、先ほど第3期中期計画に向けての課題について説明があったが、施設・設備については作るときはある程度整備できるが、更新となるとなかなか難しいところがあるので、資料を調べて県に説明できるようにしてほしい。(井上副学長) 看護学群の出願者数については、来年度からの入試制度改革による安全志向が影響している。看護学群への出願者は志望が明確なので、その志望達成のために安全志向になったと考えている。食産業学群については、AO入試、推薦入試とも出願者数が減り、第1志望での出願が多いとされる一般選抜前期日程でも減少がみられ、大きな課題であると考えている。これについては、入試制度による変動のほか、周辺に類似した学部ができていることも影響していると思われる。もう1つ、食産業学群の場合、他の学群と異なり、関東地方からの出願者が非常に多い。推測ではあるが、その受験生が新型コロナウイルスの影響により地元の大学を志望するという現象が起きたのではないかと考えている。いずれにしても食産業学群の魅力を発信していくことが必要である。

(川上議長) 来年度で新カリキュラムの完成を迎えるので、食産業学群については、その後どうするかが大きな課題だと考えている。受験生を引きつけられるようにさらなる改革が求められているという認識で取り組んでいきたい。看護学群については、堅実志向が出たということでそれほど心配はしていない。

先ほど石井委員から話のあった県内就職率の件については、努力すべきと考えているが、数値目標を設定することが回答になるのかどうかについては、考えているところである。1年生については、前期に地域フィールドワークで全員を県内に出しているが、高校生は県内ですら知らないという状況にあるので、問題意識を与えるということにつながっていると考えている。県内に就職するためには県内に就職するというモチベーションを持たせることが重要と考えているので、全体の取組の中で県内就職の確保について重層的に取り組んでいきたい。したがって、数値目標として考えるかは別として、県内就職率を増やすことは常に努力していきたい。

(阿部委員) 資料13-1の真ん中に過去を否定する風潮、孤立から生じる内向きさ、人任せに見える消極性があるが、そのとおりである。宮城大学の過去がそうだったということで書いたのかもしれないが、東京で政治家や霞が関の幹部と会っているとまさに日本の文教政策がそうだった。少なくとも平成の年間はそれが非常に強かった。その1つとして課題解決力は非常に重要であるが、今ある課題に対する課題解決力に特化しすぎている。今の課題を解決するなら定年を延長すればいいのであって、学生にとって最も重要なことは未来を創ることだから、田中委員の意見のとおり課題を発見してそれを解決できる人材が求められている。

それはこの経営審議会にも表れていると思う。長い間委員をしているが、田中委員と同じような意見が出てきたのは比較的最近の委員からであって、以前は今企業が求めているような学生をなぜ育成しないのかという意見が強かった。これは世界から見てもものすごくズレている。それを霞が関も永田町もまだわかっていないが、わかっている人も少しずつ出てきている。これを知事に説明したのは非常によかったと思う。

文部科学省の幹部の中にも今のままではおかしいと思っている人もいるが、政策として各大学に降りてくるときには非常に画一的になってしまっている。私の東北大学総長としての6年の経験から言えば、やりたいことのほとんどは文部科学省の方針とは違っていたが、OKをしてもらった。川上学長は私より文部科学省とのパイプを持っていると思うので、宮城大学のやりたいことを説明して賛成者を1人でも2人でも作るのがよいと思う。

大学院改革については、まだ私の中でどういう大学院がいいのかについて即答できるほど建設的な意見を持っていないので、よく議論して宮城大学らしい大学院改革をしてもらいたい。承知しているとは思いますが、東北大学の右倣えは全く駄目だと思うので、よい具体案を作ってもらいたい。

先ほど評価結果に関する説明があり、項目ごとに評価が出されているが、宮城大学として心外な評価もあるのではないかな。よい評価をもらうことが最高だとは思わない。国の平均的な見方から少しズレていても宮城大学はこういう大学なんだと主張した方が魅力的だと思う。いずれにしても魅力的な中期計画を作ってもらいたい。

(風見委員) 地頭のよい人材から挑戦的な人材が求められていることについては事業構想学群として応えていかなければならないと認識している。公立大学なので地域に根差した大学としての貢献やソリューションを出していきたいというのが一番である。その中で地域に寄り添うだけでなく、AIなどを含めた未来社会へどう志向を向かせるかという未来志向型の教育について議論している。

事実を分析して政策を打ち出したり、フィールドワークの中で現場を分析できる、課題を発見できる、さらに先端的なソリューションを打ち出せるかについては、コミュニティ・プランナープログラムやEDGE-NEXTという東

	北大学などとの様々な大学間連携により互いの強みを生かすアントレプレナーシップが1つのキーになると考えている。それは、新しい企業を作るだけでなく、新しいイノベーションを起こしていくという発想を大学教育で行い、事業構想学群が率先して尖った学生を育て輩出することが宮城大学の個性にもつながっていくと考えている。 (田中委員) 若者の特権ということではないが、学生は利害のからむ社会人ではないので、いろいろなところを見に行けたり見せてもらえる立場にある。私の体験では、ものづくりの現場を見られるということで工学部に入り、夏休みに大牟田に行ったときには炭鉱が見たいと先生に電話したら炭鉱に勤務する先輩がその炭鉱を見せてくれて、あと10年か20年で底をつくということまで教えてくれた。そういうことが物事を考えていくうえで非常に役に立ったので、キャンパスを拠点にいろいろなところに行ったり、連携している大学ととにかく出かけて行って、学生の特権を利用して見たいものを見る。それを持ち帰ってコモンズなどで他の学生に発表し還元するような環境づくりをぜひやってほしい。 (風見委員) 田中委員のおっしゃるとおりコモンズはそのためにあると思う。今年度のコミュニティ・プランナープログラムではリボンアート・フェスティバルとの協創プロジェクトを実施したが、東北が震災から次の時代に移るときにフィールドで見出した課題に対し、コミュニティ・ソリューションという地域に根付いた解決策を提案できるようなプログラムができればと考えている。 7 その他 次回の令和2年度第1回経営審議会は令和2年6月23日(火)午前10時から開催することを確認した。 8 閉会
--	--

この議事録は、令和元年度第2回公立大学法人宮城大学経営審議会の議事録である。

公立大学法人宮城大学

経営審議会議長

川上伸昭



議事録署名委員

工藤和浩



議事録署名委員

安住順一

